人と自然の情報交流誌
たてはく
第124号
2023.3.24
富山県［立山博物館］

立山 富士山 白山

三霊山 連携事業と令和５年度の立山博物館の取り組み

昨年から「三霊山」（立山・富士山・白山）が注目され、本年１月22日に富山県・静岡県・石川県の知事による「日本三霊山」を活用した地域振興の連携・協力協定が締結されました。文化・学術、スポーツ、観光分野などで交流を深め、三霊山それぞれの魅力を発信していこうという取り組みです。

立山博物館でこの「三霊山」といえば、真っ先に思い浮かぶのは愛知県や岐阜県など東海地方の人々を中心に盛んに行われた「三禅定」と呼ばれる巡礼です。立山、富士山、白山と、それぞれが「日本有数の霊山」の山として古代から信仰の対象になっていましたが、いくつもの聖地・霊地を巡る「巡礼」という風習が人気になると、それぞれの山へ禅定登拝する者を自分たちの山へも誘うようになります。立山の衆徒（宿坊の主人）らも、立山信仰を布教する際に、富士山や白山を信仰する者たちを立山へと誘っているのです。立山博物館ではこれまでに、「三禅定」の風習を紹介した特別企画展「立山・富士山・白山　みつの山めぐり―霊山巡礼の旅『三禅定』―」を平成22年10月２日から10月31日まで開催し、展示解説書も発行しています（ミュージアムショップにて販売）。また、この展覧会でレプリカを製作し展示した、愛知県東浦町の村木神社にある「三禅定碑」の一つを２階の常設展示室でも展示し、継続して紹介しています。しかし、まだまだ周知されているとは言い難いのが現状です。

展示館２階の「三禅定碑」レプリカ（左）

天狗平山荘から見た白山

そのような中、今回の三霊山連携事業は、立山博物館にとって「立山の魅力」を、静岡県や石川県民の皆さんに、そして富士山・白山に興味のある多くの皆さんに伝えたいという点では、江戸時代の「三禅定」を勧めた立山衆徒と同じ気持ちです。初年度の今年はまず、立山が富士山・白山とともに「日本三霊山」の一山だったことをもっと多くの方に知ってもらえるよう、展示館２階の「立山に寄せたこころ」の一角に「三霊山」「三禅定」を紹介するコーナーを新たに設ける予定です。お楽しみに！（細木ひとみ）

一ノ越から見た富士山

目　次

立山・富士山・白山　三霊山連携事業と令和５年度の立山博物館の取り組み …… 1
令和５年度　特別企画展のご案内
　前期特別企画展　みてみて！仏像のポーズ―手足が語る“みほとけと立山” …… 2
　後期特別企画展　越中立山の近世本草学―何でもあり！ あふれる探求心― …… 2
布橋灌頂会開催記念公開展　布橋灌頂会と芦峅寺
学芸課発　立博雑学
　第８回　有頼はどうやって称名川を渡ったのか？ …… 3
たてはく出前講座＆団体見学　受付中！ …… 3
令和５年度　催し案内 …… 4
「たてはく友の会」令和５年度会員募集中！ …… 4
立山博物館ボランティア新規会員募集中！ …… 4
編集後記 …… 4

令和５年度　特別企画展のご案内

前期特別企画展

みてみて！仏像のポーズ ―手足が語る“みほとけと立山”

本企画展では、仏像の手足に注目します。仏像は、手指を曲げているものや見慣れない道具を持っているもの、くつろいでいるようなもの、力んでいるようなものなど、多種多様ですが、どれも不思議なポーズをしているように見えます。

このような仏像のポーズには、それぞれに意味があります。手足の形や持ち物を観察すると、像に込められた祈りのかたちや、像がたどってきた歴史をうかがい知ることができるのです。

阿弥陀如来や媼尊、閻魔王といった、立山信仰の世界のみほとけの像がどんなポーズをしているのかを通じて、みほとけと立山の関わりをやさしく紹介します。

（坂口　舞）

会期：７月15日（土）～９月３日（日）
【担当学芸員展示解説会】７月15日（土）、８月12日（土）・26日（土）　いずれも14：00～

後期特別企画展

越中立山の近世本草学 ―何でもあり！ あふれる探求心―

本草学は、自然の産物の利用や生薬の知識として中国から伝来し、人々の生活に役立てられてきました。

やがて、江戸中期頃から西洋の博物学の影響も受け、未知の自然界への探求心がめばえ始めると、それは大名や庶民にいたるまで様々な人たちの好奇心をくすぐり、泰平の時代に趣味の世界を広げ、豊かな時間を求める、何でもありの“近世本草学”となって隆盛しました。

そして明治以降、その教養や探求心は、近代科学を取り入れて、自然理解の礎となりました。

この企画展では、“近世本草学”を担った人びとが、越中立山で動物や植物、岩石などを観察、記載、収集してきた様々な成果に光を当て、人と自然の関わりの中に残る事実を紹介します。

（吉野俊哉）

会期：９月16日（土）～11月５日（日）
【担当学芸員展示解説会】９月16日（土）、10月９日（月・祝）、11月４日（土）　いずれも14：00～

＊展示・撤収作業のため、７月14日（金）、９月15日（金）は、臨時休館します。

布橋灌頂会開催記念公開展
「布橋灌頂会と芦峅寺」

芦峅寺集落では、江戸時代、死後、立山山中にある血の池地獄に堕ちると信じられていた女性たちを救うべく、閻魔堂・布橋・媼堂を舞台にして「布橋灌頂会」が行われていました。女人禁制の立山は、「女性を救う山」でもあったのです。

本年９月に現代的に再現された「布橋灌頂会」が開催されるのにあたり、立山博物館でも布橋灌頂会開催記念公開展「布橋灌頂会と芦峅寺」と題して、江戸時代の布橋灌頂会の様子や芦峅寺宿坊家の活動などについて紹介する展覧会を開催します。ぜひ「布橋灌頂会」とあわせてご覧ください。（細木ひとみ）

「立山曼荼羅」日光坊Ａ本
（個人蔵［芦峅寺日光坊旧蔵］）

会期：８月22日（火）～10月１日（日）
会場：展示館２階　常設展示室（一部）
【担当学芸員展示解説会】９月２日（土）・９日（土）・23日（土・祝）・24日（日）　いずれも14：00～

学芸課 発

立博雑学

学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄（うんちく）や魅力を、雑学としてお伝えします。

第８回　有頼はどうやって称名川を渡ったのか？

立山開山説話では、有頼は逃げる熊を追って立山を登ります。途中には称名川がありますが、どうやってこの難所を渡ったのでしょうか？これには様々なサブストーリーが組み込まれています。各宿坊で縁起を解釈した絵解きや中語が山中で語ってバリエーションができたのでしょう。話を並べると、そこに３つの系統が見えてきます。

（１）「猿」系

猿が藤蔓を編んで橋を架け、有頼を渡らせた話。これが藤橋の地名譚です。道元や法然などの高僧が猿の橋で称名川を渡る話になることもあります。立山曼荼羅では「吉祥坊本」【図１】、「筒井家本」に猿が描かれています。この曼荼羅を描いた人は、猿の橋の話を聞いていたのでしょう。

図１「立山曼荼羅」吉祥坊本（当館蔵）部分
猿に注目！

（２）「獅子」系

有頼の前に黄金の「シシ」が現れ、その背に乗って川を渡ったという話。シシが有頼を渡し終えて消えた所が「黄金坂」という地名譚です。「中道坊本」、「専称寺本」【図２】、「竹内家本」には金色の「唐獅子」が描かれています。いずれも岩峅寺に宿坊に関連する曼荼羅です。また岩峅寺延命院に伝わる『立山手引草』には「弥熊ハ此ノフチヲツタヘシト見給フ所金色ノ師子イデタリ　時ニ金剛童子ノ言フハ　彼ニノリ玉ヘ我モ共ニト越シタマヘテ見玉ニ　師子不レ見依テ爰ヲ金坂ト云」とあるので、岩峅寺ではこれが流布した可能性があります。

ただ、これを採話した明治以降の伝説集や童話集では、この「シシ」をいずれも「イノシシ」と解釈しています。「シシ」は広く猪や鹿を指すので、話者の解釈によって猪とも語られたようです。大井冷光は『立山案内』[1]で「黄金色なせる猪現はれて卿を背に乗せて川を渡せしが、直ちに此の坂にて、姿を隠したり、と云ひ伝ふ、因つて黄金坂と称す」と書いています。

図２「立山曼荼羅」専称寺本（当館蔵）部分
金色の「唐獅子」が描かれている

（３）「猿」＋「獅子」系

一方、「シシ」を鹿と解釈する話もありました[2]。この場合は、猿の藤橋を渡った後に黄金の鹿が現れ、有頼はその鹿の毒気に中（あ）てられて倒れます。そこに薬師岳の神が現れ「汝、倒れたるままに手にあたる草を取つて食べよ」と言われ、「何かにがい草」を口にすると元気になった。その草（薬草）があった所が「草生坂」の地名譚になります。これは（１）と（２）をミックスして、さらに立山の薬草のイメージアップのために新たに作られたのかもしれません。売薬との関連も想像させます。

霊山立山は、高僧が訪れたり薬になる霊草が生えたりと、バリエーションを加味して権威付けしており、聞き流しがちなサブストーリーも中々奥が深そうです。（吉野俊哉）

1 明治41年、清明堂書店刊　2 野島好二編『立山のはなし』(北日本文化協会、昭32)所収「立山の伝説　白鷹の行え」参照

たてはく 出前講座&団体見学 受付中!

立山博物館では、学芸員が県内各地の小・中・高等学校に伺い（ご希望によりオンラインでも）、立山の自然や歴史についての「出前講座」を実施しています。小学校では立山登山の事前学習に、中・高等学校では郷土史学習にと、ご好評いただいております。

展示館にて学芸員によるわかりやすい展示解説も行っておりますので、まずはぜひ一度、お気軽にお問い合わせ下さい。（石﨑康弘）

令和５年度 催し案内 立山博物館

今年も
楽しいイベントが
満載！！

特別企画展

前期特別企画展　**みてみて！仏像のポーズ**　７月15日(土)～９月３日(日)
後期特別企画展　**越中立山の近世本草学**　９月16日(土)～11月５日(日)

その他の展示

布橋灌頂会開催記念公開展　**布橋灌頂会と芦峅寺**　８月22日(火)～10月１日(日)
ミニ出張展示　**布橋灌頂会展**　５月３日(水･祝)～31日(水)　富山県教育会館 画廊喫茶ルーエ

◆たてはく探検隊（立山の自然、歴史、文化を親子で学べる）
７月29日(土)
展示館、閻魔堂ほか　小学生対象（保護者同伴）　定員25人　要事前申込・参加無料

◆ミュージアム de ナイト in 芦峅寺（立博が「地獄博物館」に変身！）
８月11日(金・祝)・12日(土)　18:00～21:00（入館は20:30まで）
展示館、教算坊、山岳集古未来館　要常設展・企画展観覧料

◆まんだらナイトウォーク―光りと香りのページェント―
９月９日(土)・10日(日)　18:30～20:30（入苑は20:00まで）　まんだら遊苑　要観覧料

◆文化講演会「立山の高山植物、その探索の歴史 ―近世から近代へ―」
10月14日(土)　14:00～16:00　講師：佐藤　卓氏（日本海植物研究所所長・富山県生物学会会長）
立山町元気交流ステーションみらいぶ　定員35人程度　要事前申込・聴講無料

◆もみじを愛でる会（紅葉を見ながら立山曼荼羅の絵解き解説を聞く）
11月３日(金・祝)・５日(日)　11:00～11:40と14:00～14:40　教算坊　参加無料

各行事の詳細は博物館までお問い合わせください。

観覧料

■展示館
常設展示
一　般　300円
企画展示
一　般　200円
（70歳以上含む）
大学生　100円
◆大学生と70歳以上の方は企画展示以外無料

■遙望館
一　般　100円

■まんだら遊苑
一　般　400円
◆高校生と20歳以下及び準ずる方、各種手帳をお持ちの方は無料

＊20人以上団体料金あり
＊この他の施設は無料

夏休み特別企画「たてはくスタンプラリー」開催！

開催期間：７月１５日（土）～９月３日（日）
◎立博の各施設を巡ってスタンプを集めると、たてはくオリジナルグッズをプレゼント！
◎参加方法など詳細は６月中旬にＨＰなどでお知らせします。

「たてはく友の会」令和５年度会員募集中！

◎特　　典　①全ての施設の無料観覧／②特別企画展の無料観覧／③立山博物館行事のご案内
④交流誌「たてはく」と「研究紀要」の郵送／⑤図録、グッズ等20％割引（一部商品除く）
⑥友の会主催行事（バスツアーなど）への参加（一部、実費負担あり）
◎会　　費　一般会員　年額3,000円／賛助会員（企業・団体等）　年額20,000円（一口）
◎期　　間　入会日から入会年度の３月31日まで（お申し込み時点から特典がご利用いただけます）
◎入会方法　当館受付窓口にて直接お申し込みいただくか、たてはく友の会事務局まで入会申込書をご請求のうえ郵便局で会費を払い込みお申し込みください。Tel.076-481-1216　Fax.076-481-1144

立山を知りたい方、立博を応援したい方、大歓迎！

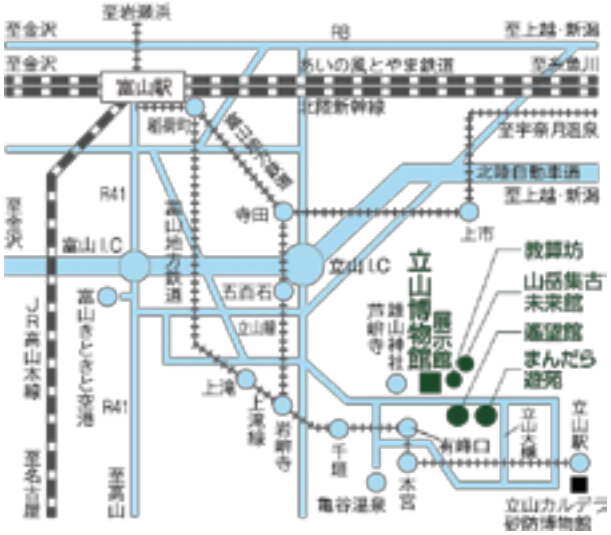
立山博物館ボランティア新規会員募集中！

立山博物館では、まんだら遊苑の解説や教算坊庭園の清掃、イベント運営の補助をしていただけるボランティアを随時募集しています。初めての方でも、各種養成講座で立山信仰や施設について基礎知識を養えます。お気軽にお問合わせください。

編集後記

「三霊山」の追い風に乗って、立山ブーム到来！…となるか分かりませんが、立博ならではのやり方で、広く立山の魅力を猛プッシュしたいところです。今夏の企画展は仏像の手足に注目！仏像のポーズを通じて、みほとけと立山の関係を紹介します。ありそうでなかった着眼点で、仏像ビギナーにも気軽に楽しめる展示を目指します。(M)

案内図



●最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩（約２km）
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で
JR富山駅から　約45分
立山駅（千寿ヶ原）から　約15分
富山インターチェンジから　約35分
立山インターチェンジから　約30分

立山博物館のホームページはこちらから。

人間と自然のかかわり方を学ぶ
富山県［立山博物館］
〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峅寺93-1
TEL 076－481－1216　FAX 076－481－1144
https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html

Facebook と Twitterあります！　立山博物館